

佳作

## 松井選手からのエール

静岡県 静岡市立清水第七中学校三年 山本凌

松井秀喜。それは日本を代表するプロ野球選手だ。僕は松井選手に何度も励まされた。

僕の小さい頃の夢はプロ野球選手だった。中学生になり、部活で野球をはじめた。中学生の時から野球をはじめた人でもプロ野球選手になった人はたくさんいるし、自分も今からでも大丈夫だ、という考えを持っていた。しかし、現実には甘くなかった。

小学生の時から野球をはじめた人が何人もいて、あまりの力の差に愕然とした。最初は追いついてやると意気込んでいたが、いくら練習しても上達しない。対照的に僕と同じで中学生から野球をはじめた人達はどんどん上達し、自分との差をどんどん広げていった。

プロ野球選手どころかレギュラーにもなれないと思った僕は、才能がなかったという理由で夢をあきらめかけた。

そんな時、一冊の本と出会った。その本にはプロ野球選手である松井秀喜選手の生まれてから現在にいたるまでのことがかかれていた。その内容は、左打ちにかえ全然打てなかったことが悔しくて何百回もバットを振り続け、今のバッティングができるようになったこと。プロになってからケガをした時も、

「僕の背中には世界中まで聞こえるような声援があるんですよ。これしきのことです。ギブアップしていたら、応援してくれるファンの方に失礼です。こんなケガぐらいで僕は絶対に負けませんからね。」

と一切弱音をはかなかったことなど、驚くべき内容がつづられていた。そして最後の、

「どんなに苦しくても、僕はがんばる。だからみんなもあきらめずにがんばれよ。」

という松井選手の言葉は、僕に語りかけているような気がした。松井選手をはじめとするプロ野球

選手はただの天才だと思っていた。僕とさほどかわらない練習量で今のプレーができるようになり、それが才能の差だと思っていた。自分はいかに努力もしていかなくせに才能のせいにして、自分で自分の可能性を決めていた。そんな自分が恥ずかしくなったと同時に、もう一度挑戦してみようと思いに決めた。

松井選手の言葉に後押しされ、練習に対する目の色が変わった。周りが十やったら二十、百やったら二百と周りよりも二倍、三倍も練習した。その努力が認められて、レギュラーの座を獲得することができた。途中でくじけそうになったが、最後まであきらめなかった事への喜びと充実感でいっぱいだった。

追いかけて後悔する夢はあっても、追いかけて後悔する夢は絶対はないと思う。これを気づかせてくれたのは松井選手だ。プロ野球選手への道のりはまだまだ長く、果てしない。しかしこの先どんな困難が待ち受けていても僕は絶対に負けない。それが僕に感動と勇気を与えてくれる松井選手への恩返しなのだ。松井選手からのエールを胸にしっかりと刻み、夢にむかって走り続けたいと思う。

